

令和4年10月入学／令和5年4月入学（第1期）

地域創生科学研究科博士前期課程

入学試験問題

工農総合科学専攻

森林生産保全学プログラム

「樹木学」

試験開始前に以下をよく読んでください。

【注意事項】

1. 森林生産保全学プログラムでは、専門科目1科目を課します。
2. 出願時に届け出た専門科目を受験してください。
3. 解答用紙には受験番号と答案を記入してください。
4. 試験終了後は、解答用紙を回収します。試験問題は持ち帰ってください。

令和4年10月入学／令和5年4月入学

地域創生科学研究科博士前期課程入学試験問題

科目名 樹木学	専攻・学位プログラム名 工農総合科学専攻 森林生産保全学プログラム
------------	---

次の設問（問1～問6）に答えよ。設問は裏面にもあるので注意せよ。

問1 樹木の定義を挙げて説明せよ。

問2 ある一つの学名の採用は、それに対応した一つの分類学的見解を支持することに他ならない。次の①～②に答えよ。学名を記すに当たっては、イタリック体表記の部位には必ず下線を付すこと。命名者名は記さなくてよい。

① ヒノキ科の *Thujopsis dolabrata* は2つの種内分類群をもつ。1つは奥日光でもみられるアスナロであり、もう一つは“青森ヒバ”として林業的に有名なヒノキアスナロ（ヒバ）*Thujopsis dolabrata* var. *hondae* である。アスナロの学名を記せ。

② 日本の主要林業樹種であるスギの学名を *Cryptomeria japonica* とするか、*Cryptomeria japonica* var. *japonica* とするかとの分類学的見解の違いを説明せよ。

問3 樹木の性に関して、両性花を◎，単性花（雄花）を○，単性花（雌花）●として、雌雄両全株，雌雄同株，雌雄異株それぞれを右図のように模式的に示せ。



問4 日本列島では、太平洋側と日本海側の山岳で冬季の積雪量に大きな違いがみられる。この違いを反映して、日本海側では特徴的な植生がみられる。これに関して、次の①～③に答えよ。

① 本州の太平洋側と日本海側の山岳のブナ林の違いを説明せよ。

② 本州の多雪山岳地に出現する樹種の特徴を記せ。

③ 本州の日本海側の山岳の森林にみられる典型的な樹種を以下から5つ選べ。

【マルバノキ、トガサワラ、ヘビノボラズ、キャラボク、サンショウバラ、チチブミネバリ、チャボガヤ、ハスノハイチゴ、ハナノキ、シデコブシ、シロモジ、タニウツギ、マメザクラ、ユキツバキ、ヒトツバタゴ、ケシヨウヤナギ、シバヤナギ、ハイイヌガヤ、バリバリノキ】

問5 本州中部地方の太平洋側のある地点における月別の平均気温を以下の表に示した。温量指数を求めよ。また、温量指数から推定されるこの地点の植生帯名を挙げよ。さらに、その植生帯で優占的にみられると推定されるモミ属、ツガ属、カバノキ属、カエデ属の各1種（合計4種）の標準和名を記せ。

表 本州のある地点の1971年～2000年の月別の平均気温

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温(°C)	-9.9	-9.8	-5.8	1.2	5.9	10.3	14.3	15.0	10.7	4.6	-0.4	-6.3

問6 修士論文において研究対象としたい樹木の分類群の標準和名を1つ挙げ、科名、属名、種の性、送粉様式、散布様式、葉序、地理的分布、分布する植生帯、生息環境についてそれぞれ知るところを記せ。なお、動物を研究対象としたい場合は、生息環境などとして関係する樹種について記せ。